

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時): 教育学部教養学科超域文化科学分科現代思想コース

参加プログラム: 全学交換留学 派遣先大学: ベルリン自由大学

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体

5.民間企業(業界:新聞・出版) 6.起業 7.その他()

派遣先大学の概要

ベルリン自由大学

冷戦初期、ソ連の統制に反発した学生や教授が西ベルリンに設立した大学

留学した動機

・ドイツ語語学力の向上

・卒論に必要な文献の収集

・母国語以外の言語で学術的な思考に取り組んでみたかった

留学の時期など

① 留学前の本学での修学状況: 西暦[2014]年 [学部] / 修士 / 博士[3]年の[冬]学期まで履修

② 留学中の学籍: 休学 / 留学

③ 留学期間: 2014 年 3 月 ~ 2014 年 8 月 [学部] / 修士 / 博士[3]年時に出発

④ 留学後の授業履修: 西暦[2014]年 [学部] / 修士 / 博士[4]年の[冬]学期から履修開始

⑤ 就職活動の時期: 西暦[2014]年 [学部] / 修士 / 博士[4]年の[8]月頃に(行った / 行う予定)

⑥ 本学での単位数: 留学前の取得単位[42]単位 留学先で取得し、本学で単位認定申請を行う単位[8]単位
留学後の取得(予定)単位[34]単位

⑦ 入学・卒業 / 修了(予定)時期: 西暦[2011]年 [4]月入学 西暦[2016]年 [3]月卒業 / 修了

⑧ 本学入学から卒業 / 修了までの期間: [5]年 []ヶ月間

⑨ 留学時期を決めた理由:

就職か大学院への進学かで悩んでおり、学部生のうちに留学をして見聞を広げた上で進路を決めようと思ったため。

留学の準備

①留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

・2014 年 3 月からの留学でしたので、2013 年の 6 月に東京大学教養学部教務課国際交流支援係に願書を提出し、8 月に面接を受け、学内選考を通過しました。

10 月には現地の大学に提出する履歴書、学習計画書などを東京大学本部国際交流課に提出しました。

また、大学が学期前に開いてくれる留学生向けの語学コースと、大学が斡旋してくれる住居の手続きが 12 月にありました。

・自分は留学前に所属の学部(教養学部)に留学許可願の届出を忘れてしまい、様々な人に迷惑をかけてしまいました。募集要項、配布される資料を細心の注意をはらって読み、抜かりなく手続きを行うようにしましょう。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

ベルリンに到着して一番最初に行わなければならないのは住居登録(Anmeldung)です。

入国二週間以内にこの手続きを行わなければならないので、役所の位置などは渡航前に調べておくようにしたほうが無難です。

その後、銀行口座の開設し(自分は Deutsche Bank でした。留学期間が半年だと口座の開設を断られることがあります)、大学が斡旋してくれた保険会社(AOK)と契約をした上で、ビザの申請をすることになります。

ベルリン自由大学の場合、ビザの申請を大学側が代行してくれるので、手続きは非常に楽でした。

ビザの申請に必要な書類についても、日本でしか作成できない書類もあるので、渡航前に調べておいたほうが良いと思います。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

歯科検診と健康診断にいったぐらいで、とくにになにもしませんでした。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

自分は日本で AIU の海外留学保険に加入してから渡航しましたが、大学の登録の手続きには使えなかったもので、解約した上で、大学が斡旋している保険(AOK)に加入しなおしました。

保険料は毎月 70 ユーロほどでした。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)とくになにもしませんでした。

⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

ドイツ語については、自分の興味のある文献を読み、Deutsch Welle のポッドキャストを聴いたぐらいだったので、準備がかなりに足りていませんでした。

渡航後に語学コースのクラス分け試験を受けた結果、B1 のクラスに所属することになりましたが、B1 のクラスの中でも自分はかなり話せない方だったので、もう少し準備をしていくべきだったと後悔しました。

もちろん後で後悔するであろうことはわかっていたのですが、日本にいる間はなかなかドイツ語の勉強に身が入りませんでした。

なんとか工夫をして少しでも毎日ドイツ語に触れ続けることが大切だと思います。

⑦日本から持参の方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

ビザの申請に経済能力証明書が必要なので、日本のドイツ大使館で作成して持参する必要があります。

あと、ベルリン市内には屋内プールがあるので、水着を持参すると気が向いたときに適度な運動ができます。

学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)

※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったものに●をつけてください。

- ・留学生向けの準備語学コース●
- ・ライプニッツのモナドロジーとその受容
- ・哲学的神学 その体系と歴史●
- ・言葉、声、文字 メディアとしての言語
- ・実践哲学入門
- ・留学生向けの発音矯正の授業●

②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)

・履修の登録は Campus management というサイトで行い、授業で使用したスライドやレジュメ、課題などは Blackboard というサイトで配布されました。

・授業の形態は講義、演習、ゼミの三つに分かれます。

・講義では先生がパワーポイントを使用してくれることが多かったので、聞き取りが苦手な私は非常に助かりました。

・原典購読のゼミ(モナドロジー)は、参加者が毎回二、三ページの予習箇所を読んだ上で、一人ひとりが疑問に思った点などを報告し、その後ディスカッションを行うというものでした。参加者は最初六人いたのですが、私が参加をやめた六月の時点で四人になっていました。

私はドイツ語力が不十分だったので、議論がテキストの内容から少しでも離れると話を追うのがつらくなり、議論で何が問題になっているのかもわからなくなりました。

きっとみんなはこれについて話しているに違いないと推測した上で何か発言をこころみるのですが、怪訝そうな顔をされることが多く、結構しんどかったです。

ただ、そんな状況でも授業に参加することを通じて、対象となっているテキストについてなにかしらの着想を毎回得られたので、不思議なものだなと思いました。

③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など

一週間で5コマの授業を履修していました。

授業外は図書館、学食などで勉強をしていました。

勉強に集中できる日と集中できない日のムラが激しく、勉強時間は平均で3、4時間ほどだったと思います。

④学習・研究面でのアドバイス

・これは日本の大学でもそうですが、最初の方はなるべく多くの授業を見て回った方がいいと思います。早い段階で履修する授業を絞り込んでしまうと、その授業の内容に興味あまり持てなかったとき、かなりしんどい思いをすることになります。外国語で一コマ90分の授業に参加するのはかなり体力がいるので、興味持てない内容だともすごくつらいです。

⑤語学面での苦勞・アドバイス等

・自分はアパートに住んでいたため、今日はドイツ語を一言もはなさなかったな、という日がありました。ドイツ語力を向上させるためには、ドイツ語を話す機会を意識的に増やしていく必要があると思います。

・ベルリン自由大学には日本学(ヤパノロジー)を勉強している人がたくさんいるので、タンデムパートナーを見つけるのもそこまで難しくないと思います。自分は現地の大学で日本学を学んでいる人と仲良くなって、日本学を学んでいる人たちのメーリングリストに、タンデムパートナーを募集するメールを投稿してもらい、タンデムパートナーを見つけました。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

大学が寮とアパートを紹介してくれたので、家賃は月410ユーロと高かったですが、自分はアパートを選びました。

集団生活だと、性格が合わない人と一緒になった時に苦勞するだろうなと思ったからです。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

・交通機関については、ベルリン市内の電車、バスで使える定期券を大学が発行してくれるので、それを使用しました。
・銀行については、家賃の振込み、保険の契約などを行うために、現地の銀行口座を開設する必要があります。自分は現地の ATM で現地通貨を引きおろせる新生銀行の口座を渡航前につくり、奨学金はそこに振り込んでもらうようにしました。ただ、一度財布を盗まれたときに、キャッシュカードをなくして苦労したので、不測の事態に備えて、スペアのキャッシュカードをつくっておくべきだと思います。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

・ベルリンは治安はいい方だと思いますが、それでも深夜にはなるべく出歩かないようにしました。

④留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

・毎月の生活費とその内訳

家賃が 410 ユーロ
食費が 400 ユーロ
娯楽費が 30 ユーロ
保険が 70 ユーロ
の計 910 ユーロです

・留学に要した費用総額とその内訳

五か月分の生活費 4500 ユーロに
語学学校の授業料が 600 ユーロ、
学費・交通費が 300 ユーロ、
書籍費・コピー代が 200 ユーロ、
往復の航空賃が 1000 ユーロ、
留学中の二回の旅行費が 600 ユーロで
合計で 7100 ユーロほどです。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

日本学生支援機構の平成 25 年度留学生交流支援制度を利用して、4 月から 8 月までの滞在費を、
DESK の ZDS-BA 奨学助成制度を利用して、3 月の滞在費と往復の航空費を受給しました。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

休暇中にブラハとバルセロナに旅行に行きました。

ガイダンスの際に大学側が留学生向けのサークルを紹介してくれたのですが、勉強でいっぱいになるだろうと思っていたので、自分は参加しませんでした。

派遣先大学の環境について

①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

・学期期前、学期中共に大学が留学生向けの語学コースを開設してくれています。
・カウンセリングなどもサポートも充実しているようですが、自分は利用しませんでした。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)

・図書館はかなり充実しており、日本語の本もたくさんおいてありました。
・食堂は味付けがあまり好きになれませんでした。
・学内に無料で利用できる無線 LAN があります。

留学と就職活動について

①(就職活動を既に行った場合)留学が就職活動に与えた影響、メリット・デメリットなど

メリットは留学という経験をもとに自己アピールができること、
デメリットは留学期間中に説明会やインターン、選考に参加できないことです。

②(今後就職活動を行う場合)留学が就職に対する考え方に与えた影響

自分はドイツ語力が不十分であり、また五ヶ月という短い期間だったので、留学によって大きな学術的な成果が得られたというわけではありません。

しかし、今後大学院に進学し、グローバルに活躍できる研究者になるためには、どのような能力が必要とされるのかは肌で感じる事が出来ました。

そうした中で、大学院に進学するという方向が多少は相対化され、就職活動についてもかなり前向きに考えられるようになりました。

③留学中の就職活動への対策など(もしあれば)

とくに留学中は就職活動への対策は行っていませんでした。

④就職が決まっている場合は、差し支えない範囲で就職先をお知らせください

1.研究職 2.専門職(法曹・医師・会計士等)(職名:) 3.公的機関(機関名:)

4.非営利団体(団体名又は分野:) 5.民間企業(企業名又は業界:)

6.起業(分野:) 7.その他()

留学を振り返って

①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

ドイツ語ができないと生活を送れない環境に身を置いていたので、いやでもドイツ語の力が身に付きました。いろいろ困難そうに思えることにも直面しましたが、やってみると案外大したことなかったりしたので、留学前と比べると積極性が身についた気がします。

あと、ドイツ語の文献を読む際に苦痛をあまり感じなくなったのが私の中では一番大きな収穫でした。

②留学後の予定

一年卒業を遅らせて就職活動をする予定です。

③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

いろいろと大変なことはあるかと思いますが、困ったことがあったときはすぐに周りの人に助けを求めるのが大切だと思います。

充実した留学生活を送れるよう頑張ってください。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

ベルリン自由大学のホームページ

<http://www.fu-berlin.de/>

ベルリンの役所のホームページ

<http://www.berlin.de/buergeramt/>

ベルリン市内の交通機関のホームページ(路線検索など)

<http://www.bvg.de/de/>

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。



ポツダム広場前のベルリンの壁



語学学校のクラスの遠足

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時):教養学部教養学科超域文化科学分科言語態・テキスト文化論コース4年

参加プログラム:全学交換留学 派遣先大学:ベルリン自由大学

卒業・修了後の就職(希望)先:未定

<p>派遣先大学の概要 ベルリン自由大学 歴史・文化学部</p>
<p>留学した動機 海外の大学において異なる言語で研究をするとはどのようなことか、また外国語において他者理解をするのかどのようなことか知りたかった。</p>
<p>留学の時期など ①留学前の本学での修学状況:西暦[2014]年 学部 [3]年の[冬]学期まで履修 ②留学中の学籍:留学 ③留学期間:2014年3月 ~ 2015年8月 学部 [4]年時に出発 ④留学後の授業履修:西暦[2014]年 学部 [4]年の[冬]学期から履修開始 ⑤就職活動の時期:未定 ⑥本学での単位数:留学前に、既に卒業に必要な単位のうち、卒論に関するものを除いたものは取り終えていた。 ⑦入学・卒業(予定)時期:西暦[2011]年 [4]月入学 西暦[2015]年 [3]月卒業 ⑧本学入学から卒業までの期間:[4]年[0]ヶ月間 ⑨留学時期を決めた理由:留学をしたいと思ったってから一番早く行ける時期だった。</p>
<p>留学の準備</p> <p>①留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど) 英語またはドイツ語で何をしたいか、どの授業を履修したいかなどを簡単に書かなければなりません、大きな手間ではありません。また、基準に達していなければ留学が出来ないと言った厳格な意味での語学要件はありません。よって、手続きで困ることはないと思います。</p> <p>②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど) ドイツのビザは現地で申請します。自由大学は学生課で申請出来るため、非常に簡単でした。 アドバイスとしては、以下二点です。 1<input type="checkbox"/>日本のドイツ大使館で「経済能力証明書」を発行してもらってから渡航すること。 2<input type="checkbox"/>保険は現地の大学内窓口で加入すること。</p> <p>③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等) 一応英文の健康診断書を駒場で発行してもらいました。しかし、診断書の提出を大学から求められることはありませんでした。予防接種などはしてません。</p> <p>④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等) 自由大学への留学生はその8割以上がAOK Nordostという保険会社に参加することになります。毎月77ユーロです。歯科治療に対して保険金がない日本の保険ではビザがありません。</p> <p>⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して) 学科の先生に報告して、留学中に行われる必修授業に関して次の学期に履修するという事にしてもらいました。</p> <p>⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等) 英語:TOEFLで90いかないくらい。 ドイツ語:B1~B2くらい。 渡航前の語学学習に関しては、モチベーションが上がらなくて当然だと思いますから、とにかく、リスニングだけやってください。駒場のドイツ語ネイティブの授業に週二回くらい参加していれば十分だと思います。前期の授業でも、「留学するのでその準備として参加したい」と言えば大抵聴講は許可されます。</p> <p>⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど 会話の例文が載った教材(そのまま丸暗記できるもの)。意外と現地で手に入りにくいです。</p>
<p>学習・研究について</p>

①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)

VorbereitungkursB1.1

Sprach und Gewalt

SprachkursB2.1

②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)

出会った単語は毎日リスト化して覚え、それ以外は大体授業で課された教材を図書館で読んでいました。

③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)などゼミを二つに講義を一つ、語学クラスがニコマ、タンデムがニコマでした。

④学習・研究面でのアドバイス

今日不明瞭なままで終わった事には、近い内にすぐにまた直面せざるを得ません。しんどいことも多いでしょうが困難に当たった時、とりあえずその場で解決しようと試みるのが重要です。具体的には、すぐに質問する、自分が理解した内容を「こういうことですよ？」とパラフレーズしてみる、こまめに辞書を引く、などです。

⑤語学面での苦勞・アドバイス等

上手く言えないときに聞き手を待たせ、聞き手が自分を注視している状況で考えることに慣れることが重要です。「上手く言えない、待ってください」と言って待ってくれない人は経験上居ません。「流暢に喋ろう」という気持ちは最初の内は足かせになると思います。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

キッチン・シャワーなどを6人で共用する寮でした。一ヶ月約 300 ユーロ(掃除付きの場合)、自由大学の斡旋で簡単に見つかりました。私は比較的落ち着いた部屋でしたが、同居人によって住環境に当たり外れが激しい様子です。Studentendorf Berlin Schlachtensee という名前でした。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

閑静な住宅街で、気候は落ち着いていました。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

特にありません。治安に関して言えば頗る良かったです。

④留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

・毎月の生活費とその内訳

家賃約 300+食費 150+保険 80+その他 50=580 ユーロ、8 万円ほど。質素な生活を送っていました。

・留学に要した費用総額とその内訳

渡航費 1000+交通費 250+準備クラス 600+家賃・食費・保険 3500+その他娯楽・書籍・旅行など 1000~2000=6500~7500 日本円で 90~110 万円くらいかと思います。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

Jasso(日本学生支援機構):本郷の全学交換留学に応募した際に紹介をうけました。生活費援助、月 8 万円。3月は大学に在学していなかったため、支給を受ける事が出来ませんでした。

DESK(東京大学ドイツ・ヨーロッパ研究センター):先生から紹介をうけました。Jasso で支給されなかった、大学が始まる前の3月一ヶ月間の生活費と渡航費の援助、合計で 20 万円ほど。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

読書が主でした。

派遣先大学の環境について

①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

全ての面で万全です。驚くほど手厚いサポートでした。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)

東大と同程度にそろっています。

留学と就職活動について

就職活動は行っておらず、今後に関しては未定です。

留学を振り返って

①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

・生活に関して:留学をすると、生活を一旦リセットして新しく始めることになります。最初の一ヶ月は多くの手続きに戸惑いましたが、その過程で、自分で自分の生活を切り開いていく実感を得ることが出来、一人暮らしをしたことのない自分にはこの体験が「今後一人で暮らすことになっても大丈夫だろう」という自信につながりました。また、大抵のこと

はたとえ外国であっても、人に助けを求めれば何とかなるということも学びました。これらのことは、既に生活の根がしっかりと降りている日本ではなかなか実感することが難しいことです。

・語学に関して: 語学的な面に関して言えば、留学の意義ははかりしれません。自分にとって意義深かったのは、英米圏の学生にとって英米圏の自分の母国語でない言語の取得は日本人に比して圧倒的に楽なのだという発見です。この発見をもとに考え、「語学が身に付くかどうかは、学習している言語に対して頭の働かせ方を慣らすことができるかどうかによるのだ」と結論するに至りました。

その他: 英語は日本人以外の全員が喋れると言って過言ではなく、英語を勉強しなければ、という危機感とともに、これだけ多くの人と話せるのだから英語はなんとかなるという感覚を得る事が出来ました。(学習に際して重要なのは、「やらなきゃ」という感覚と、「やればかならずできる」の二つです。)

②留学後の予定

帰国後の半年で卒業論文を仕上げ、大学院に進学しようと思っています。

③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

私は半年間の留学でした。「半年」と聞くと一年間行く人が多い中では中途半端な長さのように感じる方もいると思います。私も、しっかりした研究をするには半年では短いのではないかと、留学を検討していた際に感じたのを覚えています。しかし、自分はまだ研究という点では完全に初心者であるため、今回の留学の目的は語学力の強化と異文化体験という二点におこうと考え、この期間での留学を決めました。以上二点に関する限りにおいては、今回の留学は十分意義深く、逆に一年間では少し長過ぎたのではないかと今振り返って考えております。

一年間の留学となると、学部の勉強・就活との兼ね合いで多くの人々が留年することになってしまうのが現状です。私は半年という留学スタイルはこの点から鑑みても適度な期間だったと考えます。留学を考えている人は、是非一年という期間ではない形の留学も検討してみてください。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

小田実(1979)『何でも見てやろう』講談社、講談社文庫。
中島義道(1990)『ウィーン愛憎』中央公論社、中公新書。

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。